

第1回検討会における委員からの指摘事項

【指摘事項】第1回検討会以降の対応状況

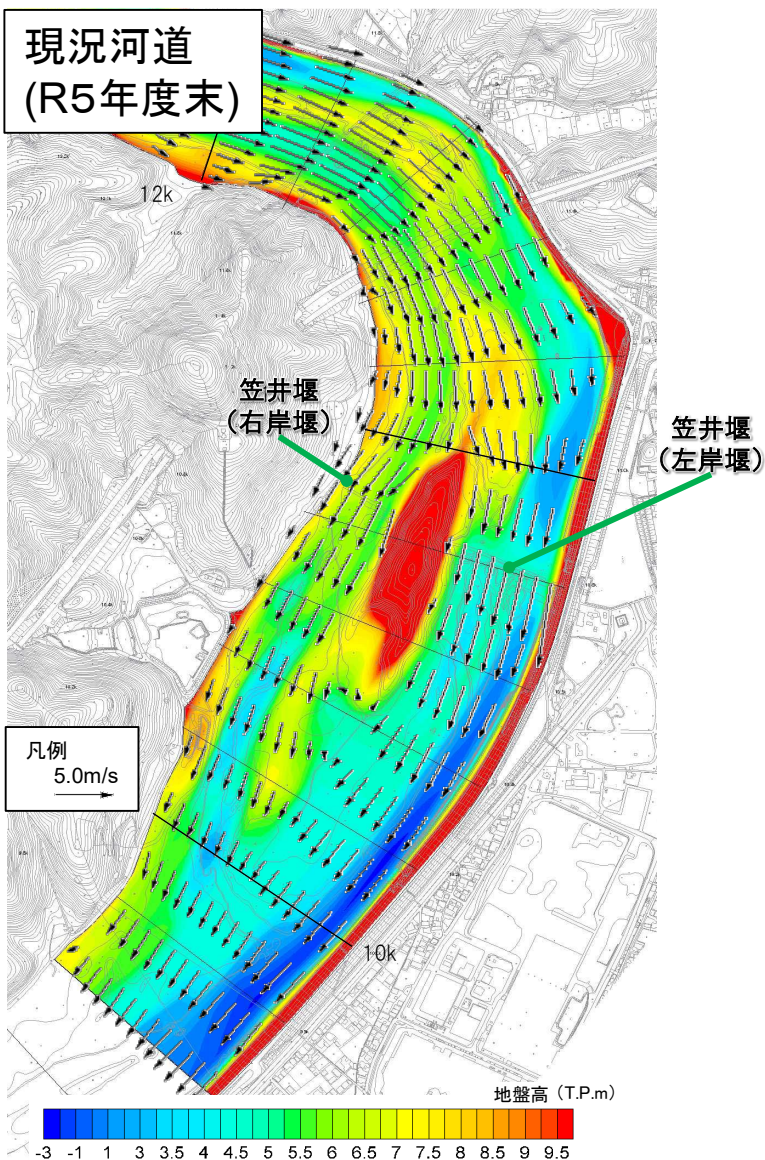
第1回 酒津地区堤防強化・笠井堰改築事業検討会 令和6年6月4日（火） 議事要旨より抜粋

番号	第1回検討会における 指摘事項	第1回検討会以降の 対応状況
①	規約第2条では「酒津取水樋門への影響が想定されるため」とあるが、「酒津取水樋門及び関連施設への影響」とするべきである。 第2条については、「酒津取水樋門及び関連文化財」に修正するという事でよい。	規約第2条については、「酒津取水樋門及び関連文化財」に修正する。令和6年6月4日付けから施行とする。 資料1規約を参照
②	第一には現状保存、やむを得ない場合には移築ということだが、その場合、国としては現状を改変することになる。 重要文化財の指定解除となる可能性もあり、文化庁の担当者にも検討会に出席いただき、文化庁の意見を聞いた方がよい。	文化庁担当者に本検討会にオブザーバーとして参画いただいた。 資料1規約を参照
③	流速ベクトルの図をみても、水衝部の左岸が削れやすく、危険性が高いという認識ができる。 左岸側の流速が大きく、堰付近や取水口付近では、相当な流速が出ている。 改修後に、流速の偏りが改善されるか検討してほしい。	現況河道と河川整備計画河道それぞれの河道で整備計画目標流量8,300m³/s(酒津地区)が流れた場合の流速ベクトルを比較した。 高水敷整備により左岸側の流速が低減していることを確認した。 資料2_P2を参照
④	河道掘削により、出水時における河川水位の低下量や流速の低減量は計算しているのか。	現況河道と河川整備計画河道それぞれの河道で整備計画目標流量8,300m³/s(酒津地区)が流れた場合の計算水位と断面平均流速を比較した。 河道改修により水位が低下。また、断面平均流速が低減されることを確認した。 資料2_P3を参照

【指摘事項への回答】河川改修後の流速の偏り改善について

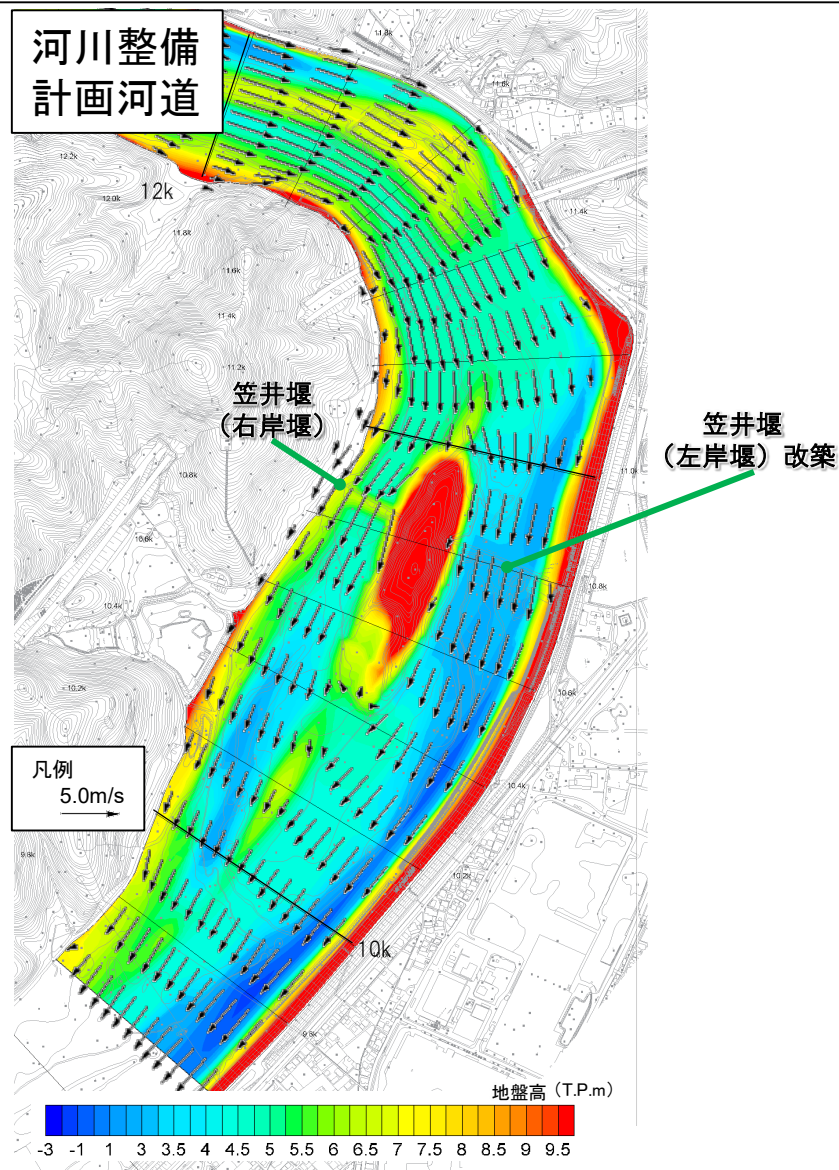
- 現況河道(R5年度末)と河川整備計画河道の河道毎に整備計画目標流量 $8,300\text{m}^3/\text{s}$ (酒津地区)が流れた場合の流速ベクトルを比較。
- 整備計画河道までの河川改修と高水敷整備により、流速に対して堤防を防護し、左岸側への偏りも改善され、流速が低減。

現況河道
(R5年度末)



河川整備計画(R4.3)目標流量($8,300\text{m}^3/\text{s}$)流下時

河川整備
計画河道



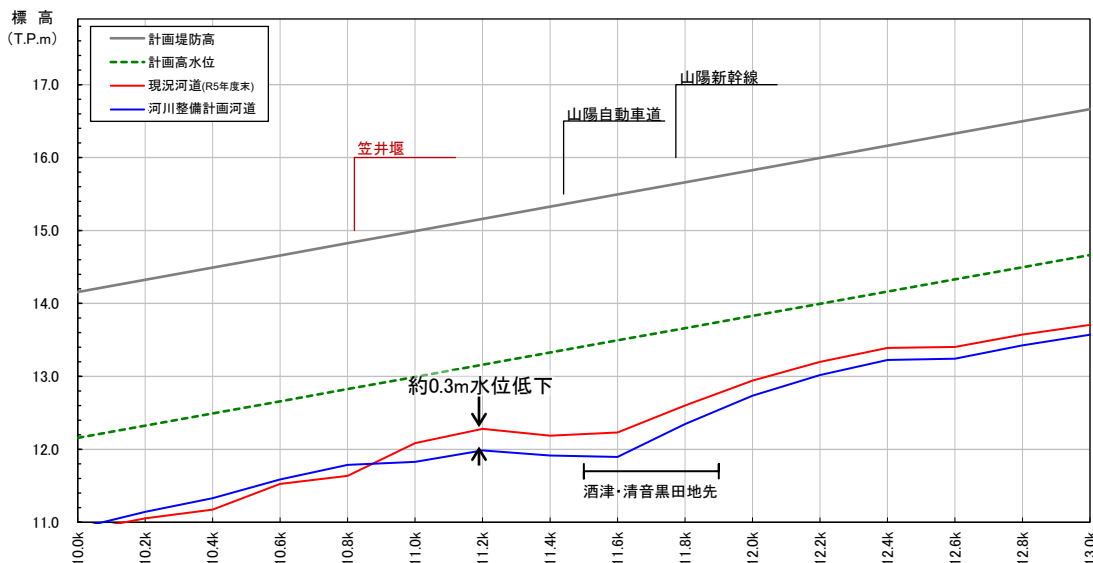
河川整備計画(R4.3) ($8,300\text{m}^3/\text{s}$)目標流量流下時

【指摘事項への回答】河川改修による水位と流速の変化

- 現況河道(R5年度末)と河川整備計画河道の河道毎に整備計画目標流量 $8,300\text{m}^3/\text{s}$ (酒津地区)が流れた場合の水位と流速を比較。
- 整備計画河道までの河川改修により、10.6k~13.0kの区間で最大0.3m程度の水位が低下。また、1.0m/s程度の断面平均流速が低減。

【水位縦断図】

※河川整備計画(R4.3)の
目標流量 $8,300\text{m}^3/\text{s}$ 流下時の計算水位
※分流部(10.6~10.8k)は左岸の水位を表示



【断面平均流速縦断図】

※河川整備計画(R4.3)の
目標流量 $8,300\text{m}^3/\text{s}$ 流下時の断面平均流速
※分流部(10.6~10.8k)は左岸の平均流速を表示

